

講義名	日本事情 C			授業形態	
担当教員	村上 友章	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

### 主題と概要

この授業は、留学生を対象に基本的な日本の歴史を理解することを目的とします。前半は、映像などを用いながら縄文時代から明治維新までの日本史を人物を中心に段階的に学びます。後半は、歴史の中の「なぜ？」に自分で答えを出してみたり、各回で取り上げる受講生の母国の歴史と日本史を比べてみたいと思います。授業を通じて、ペアあるいはグループになってディスカッションを行い、発表してもらいます。

### 到達目標

- (1) 基本的な日本史の流れを知ること、日本の文化や社会をより深く理解できるようになること
- (2) 学んだ知識を活用して、日本人学生や社会人とのコミュニケーション能力を高められるようになること
- (3) 日本史をはじめ様々な国の歴史と対比することで母国の歴史を相対化できるようになり、よりグローバルな視野を身につけられるようになること

### 提出課題

- ・毎回、簡単な予習・復習レポートをクリッカー（レスポンス）で提出してもらいます。
- ・授業中にも活動の記録等を提出してもらいます。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

### 評価の基準

- ・平常点（毎回の課題提出や発表の量・質など）70%、期末レポート課題30%の比率で評価します。

### 履修にあたっての注意・助言他

遅刻3回で1回欠席とします。15分以上の遅刻は欠席となります。積極的な授業参加を望みます。

### 教科書

.なし.

### 参考図書

.なし.

### その他

- ・担当教員が用意したテキストを使用して授業を進めます。テキストは毎回配布します。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：授業の概要や進行説明
- 第2回 縄文時代と弥生時代 / 楽悠輝
- 第3回 ヤマト王権による統一国家の成立 / 聖徳太子
- 第4回 進む中央集権化と国際文化 - 奈良時代 - / 藤真
- 第5回 摂関政治と風俗文化 - 平安時代 - / 航式部・清少納言
- 第6回 武士の台頭と鎌倉幕府 / 平清盛
- 第7回 鎌倉・室町文化 / 室町・世阿弥
- 第8回 室町幕府と民衆の成長 / 足利義満・義政
- 第9回 戦国の動乱から天下統一へ / 織田信長
- 第10回 幕藩体制の確立 / 徳川家康
- 第11回 江戸時代の産業と交通 / フランシスコ・ザビエル
- 第12回 江戸時代の文化 / 近松門左衛門
- 第13回 幕末の日本 / 坂本龍馬
- 第14回 近代国家の成立 - 明治政府 - / 伊藤博文
- 第15回 近代産業の発達 / 大久保利通

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A: PBL (課題解決型学習)	<input type="radio"/> I: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> U: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E: グループワーク
<input type="radio"/> O: プレゼンテーション	<input type="radio"/> C: 実習、フィールドワーク
K: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

### 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・準備学習（予習）として、以下の2点に取り組んでもらいます。（2時間）  
各回のテキスト（授業中に配布）を読み、課題に答えて来て下さい。  
各回で取り上げる時代に各自の母国では何があったのか、その歴史を調べて来て下さい。
  - ・授業後にまとめる実践学習（復習）に取り組んで下さい。（2時間）
- 以上の予習・復習課題はクリッカー（レスポンス）で提出してもらいます。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- (1) 「ネアカのびのびへこたれず、の精神をもった人材」：日本史を彩る個性豊かな人物に触れることで、逆境でもたくましく生き抜く知恵を知ることができるでしょう。
- (2) 「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」：日本史の知識を知るだけではなく、その理由を考える作業も行いますので論理的思考力を磨くことができるでしょう。
- (3) 「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」になることができる：自分の国の歴史と日本史を結びつけることで、新たな価値を創造します。
- (4) 「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材」：日本で就職するならば社会人として必要となる基本的な日本史の知識や、必要な日本語能力を身につけ、活用することができるようになります。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

クリッカー（レスポンス）を使用します。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考